海外新話拾遺

一

西垣文庫
文庫10
6577
2

三康図書館蔵

海外新話拾遺巻之二

林則徐造木筏焼討夷船事

林則徐ハ廣東総督の命を蒙り早速その地より下向し
て鴉片烟草厳禁の法令をとゞ〻日夜寢食をもや
まんゼどその根源を断絶して皇帝の宸襟をも
やすんじ奉りつゝハ人民の疲弊をまぬかんとて
鴉片烟草を吸食しおよびこれを賣買するものゝ
あるをバたちまち捕獲して拷問して夫〻罪の軽重
よりそれ〻〻刑罰をなす程まで英國
の流民義律よむうつゝ後鴉片烟草禁止

西垣文庫

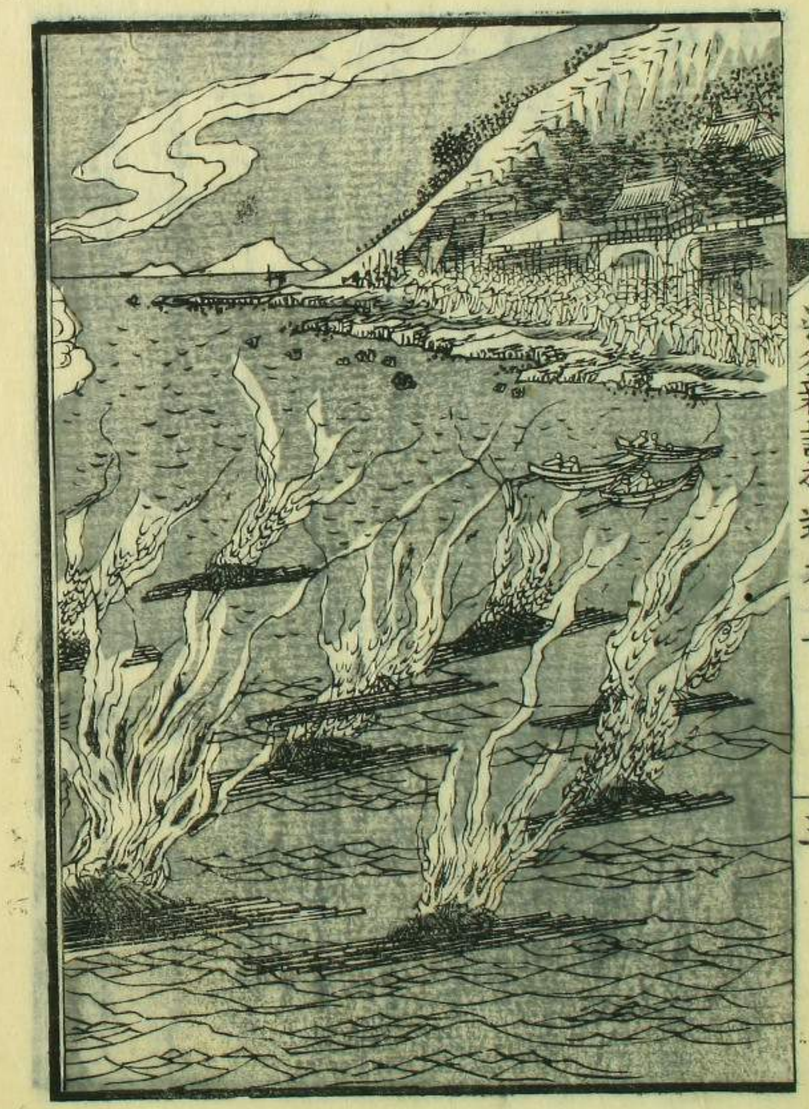
文庫10
6577
2

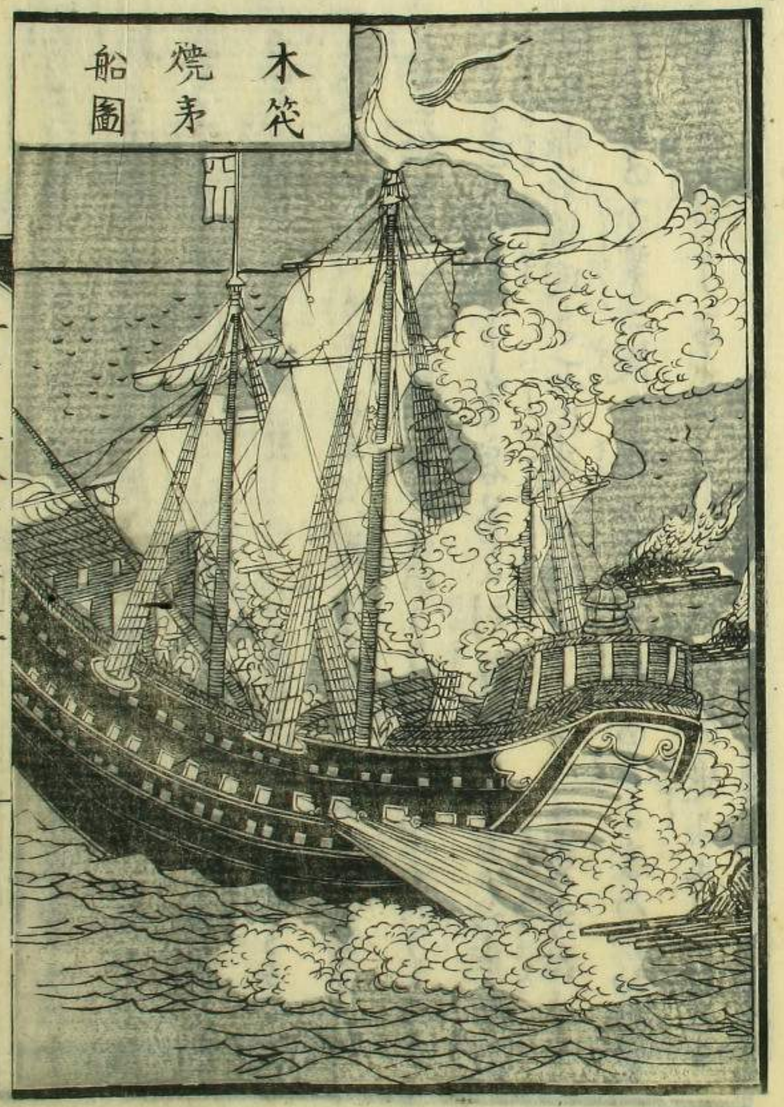
さるべきのよしを申達し。今艘内船中の畜蔵さ
所のもの三日をかぎりとめ〳〵差出さべきよしあを
べ義律ハ是非〳〵て三万余函を差出さ〳〵て義
律をさ〳〵めその他の英商ホ今日より彩片禁断ようつ
て交易利潤おきを広ふ廣東当在の英吉利人
追々よ阿帆セり近日入湊の高船一艘彩禁令の厳
ある事を考へ〳〵〳〵碇泊セもつともその船中よ
印度地方より おび〳〵し〳〵積来るところの彩片ハ
山のごと〳〵義律ハこれを見〳〵〳〵阿帆セ
〳〵むるよ事のびぎ一計をもうをて英吉利荷擔の高

人伍栄紹といへるものよひそうよ報を〳〵言ふるハ前日
より〳〵〳〵湊よ入くまてる一艘の大船彩片阿芙蓉を多
く積来きたりかまつ〳〵もとより此度の厳禁をきく
〳〵数万里の海路を志のぎ着船セ〳〵ことなを
び むあ〳〵ことを阿帆セ〳〵むるよ事のびぎ廣東の
土民爾よ禁令を恐怖をといへどもその印中彩片を
嗜むよつ〳〵名々ひそうよ畜蔵さんことを祈ぐう
今その移ぐうとろよ おみ〳〵ひさぐときハ買ものさ
ぶんで多うん何卒君ぐ計畧よつ〳〵阿船の彩
片を賣抜きくまうことをさ〳〵でその略恩よむくび

奉り後日齎〳〵来る所の英國の産物よりおゝ〳〵殊
更その〳〵ひを低ふして君ゞよりよ利潤あ〳〵む
多〳〵と伍栄紹ハとまを聞〳〵元来彩欲ふかきもの
あきべ大よよろとび歩よ入〳〵小舟よ去来他の和蘭
弥利堅ホの商船よ用向ある体よ仕為して渡を
漕出〳〵右の英吉利舩よいろいろへなつて来るとこ
ろの鶏片倆弟を載ゆる土人ホも彩法令をおゝ〳〵
ひそろよとまを買求め〳〵吸飲するものおゝろ〳〵ゆる
賢くも林則徐ハとまをさつ〳〵いろ〳〵渡口よめく
まるところの英吉利船鶏片倆弟をゆ〳〵おきひそろ

よこまをひさ〳〵ことろ〳〵ひゆ〳〵焼討〳〵て他の夷人
をそ〳〵そべきものあり〳〵と先委員のものよ命じてその
用意をゆ〳〵近辺を今の樹木を伐と〳〵セこまをもつ
う〳〵二十四艘の筏をつくりそのうへよ軟きる茅柴
ホの類を惣載〳〵そのうちよ火業をとく〳〵うづめ上
よ膏油をそゝぎこまを一列の曲湾よもうけおゝ時
い節をまち〳〵用とゝ彩芸三月五日十年道光二の早朝漸
水のまうぞくをまち〳〵林則徐ハ同役の登廷楨とお
ゆ〳〵曲湾よ出〳〵水勇数百人よ下知〳〵木筏を
漕出さ〳〵ゆ時よ英吉利船中の夷人ホハゆる事




木筏燒船圖

有とハいさゝか迯ゝ往ゝ睡るゝあり乃ち水勇ホ二十艘の木筏をもつゝ二隻より弧一先茅一隻を上流より岸をとけ流しゝ乃ち夷船よりあゆまさゝ夷船よりあゆまさゝ

つき岸紫一时よ激出ゝて百富のくづきおつるごと夷人ホ不意のとゝあきこび周章繹ぎ礮をあゞて沖合よ発ちんとさゝきどもそのいろ〻綱鞆をもつゝつゝりゝきべまゝゝて容易より引揚ることあゝいぞ船後の砲眼を推開き石火失を繰出ゝて一二發ち出ゝゝしゝぶそのの玉茅二隻よ備へゝる木筏の上よまろびおち柴草よ岸移りきゝきべいよゝ漂ゝの退りよゝゝひとゝ

ホ夷船よ流寄と見へゝよその木筏とゝもよ夷船周廻よあつゝ動ゝまで猛中ゝ突中よ強あゝ帆を焼檣を倒ゝ船中の諸乃臭一时よゆゝとありきゝべいゝでゝもつゝ清滅まゝきそのの大船一瞬の間よ破裂ゝゝ海上よ飛散ゝゝ时水勇ホ魚のゝ中を泳ゞごとゝ出でよ岸辺よ泳つき陸上よ備ゝる兵卒と共よ携鬨あげゝゝ実よ勇ゝしきゆゝるまゝべゝありゝゝて義律ハ館内よあつゝ时光景を見中ゝ無念なるとゝぎゝゝゝとゝども本国のものとハゝゝつゝよ銀内よ残りある数人よきゝ乃いんともきゝゆゝ

本國より左くり右のことを告ちゝせんとせしもいま
ハ云ふくるべきの船なし〜うつ歌地より身を考ることハ一
日片時もやすきことなしうつ〜ひそろよ弥利堅の
商人ゆさのこいもその船より来り〜印度を隔の「セイロン」
といへる本国形勝の地まぐ〜立ちそき夫より蓋
元船より寄来英国の船に於て繫龍動よりて帰りる
於餘姚縣捕獲閉者戛
近頃夷人ホ定海の島地をセわとりるう　定海を攻取の一条海外
新話見聞志きりより注進ありたる浙江一帯の諸省へも
不日あ〜ふせべ〜とて給諭ありて安人より命じて

日々数百人の兵卒を引さうくつゝ浦々を巡見あつ〜
非常を敬言固ちこ〜ハ八月十一日のことなりきゞさ
役丘正といへる人右営寄外林桂中営彰外王歩青
とも〜ハ除姚縣の海岸を巡見あるよまま〜
ゝろき衣服を着白き腿をうろ〜ある男一人路の
うゝ〜るゝ樹木の蔭より出てりうをとえ付さういろよ
もあやきものよおもうるもあ所バ出なハち侵卒よ
命じてこきをとゝ〜ゝ〜ゝ就ゝ〜侵卒ハゝぐちよこき
をとゝへゝるゝぐそのもの坤輿図一幅浙江地図おゝび
華墨麦候おの品を所持せりいり〜あやきを

よおもひ女手を束結して丘正が前より引来まう丘
正その容色をんさつきるよ、ろ洋人の衣服を
着うといへども面色言語まつ〳〵中華の人なり
きうをびこのもの英國の名有とあつ〳〵華をたる
英民なることとうびあ〜まづ樹向をとぐ多〜
として地をよざせ〜ゐ丘正ぐうう〳〵その出変をさし
とうまきし中國の人すでに楊孜府興化縣の
産なり名を孫成功といひ縣のろ家園といへるとこ
ろに居住せり父八十年以前苑去し母いまなほ
〜第二人あり長を起鳳次を起麻といふとう〜

杉楊孜より住せり自身年八前年の秋七月中粉
糖を買入んさあり上海縣へいうし〜おりう〳〵英
吉利人のあるよあざむうまつねよ和船へ携去る夫
より数月掠立を怪〳〵呂宋「セイロン」などいへる國よ
逗留せ〜ごこの度英吉利人中華を侵犯せるのと
おこうきるいち我中國の産なるをもつ〳〵事内の
ことをあのまま来るといへども元来不和之のこと
あるをバ上陸して中華の動靜をうかがうよことをせ
三日以前端舟より高〳〵うの近邊へ着岸せりいさう
英人より同意し〜中国の言をあるものよあるさま

バ刑罰のおどし断〻許容ゆるしまへと言ふ〻あへ
く甚他事を白状セざる丘正まゝ委負のものゝ命
じその懐中を点検セしむるゝ畳二尺横巾尺
ばかりの白き紙ゝ

あし弱ゝの姫

の文字を
出ゝるゝのゆゑ外ゝ紅なる雑の抜毛数十本
あり丘正ハまゆ〻不思議なることゝおもひその義
を再三問といへども彼ゝ即答ゝおよばゞるゝつく〻委
負のゝものをして釜を熱〻いくゝその胴贅を手し
ゐ形も拷問ゆるゝ右

あし弱ゝの姫

の四
字ハさなゆち信心天雷の英字なり保姫近造の江湾

船を進入ゝるゝおゐ〻便利ゝゝき場あゝゝびその
場毎ゝ右信心天雷の四字を出ゝる紙をもつく〻高
樹の梢ゝ〻ハ横巾危巌ゝ貼つけそのゝゝつゝ
あゆとゝのゐ毛を掛おく〻ゞゝと英人磐引鯨
とゝふもの指ゝゝつゝこの数ゝを形抜ゝといへども
上陸の後ゝ命ゝゝさゞび右の御をきりつけ進ゐ
とゝけゝる者ゝ〻ゝゝあゝとぞゝゝゝる丘正ゝゝ
詠〻ゝ石ゝるハ磐引鯨といふゝるものぞゝゝ
て曰引鯨ハ英国の大長ゝゝゝ法律布示利
の法おとゝゝゝゝ為のゝとゝつゝ海賊ゝり

引綱もつとも軍船より長ぜるはしあるうへ船
如宮殿ホのところよりむうつ〳〵来る事船大なる
ものゆ十三艘小なるものゆ数をまつぐ中ゆ甚気
船とやうなるものあるうへの子のゆくことなるのみ
るよういとをゆうとを兵数つゆ〳〵うよ来さぐ
とつども凡一万五千人ゆ中ゆ十分一
堂形の悪徒五十余人あうことをゆ先導をなやり
このものもつとも中華の秘訣をゆらゆ且まさ大軍
をあげゆ〳〵中華の機密ゆ投入る所以のものハ林
号徐度ゆ来ゆ〳〵英夷の大船を焼付ゆ

中の事人を刑戮をるゆうつ〳〵義律こまを英吉
利王ゆ奏進一五つを請〳〵俄鑑をおゆ〳〵俄鑑の
防備を施をゆ〳〵英国の形勢とゆさんと欲
るゆうゆまバ能〳〵防備の由を為ゆ〳〵
既を地ゆよりまてぞゆ〳〵ゆ英民をゆ決刑ゆ
ゆ人〳〵ゆ英民をゆ決刑ゆ
如新を五正ゆ勇ゆをるゆ五正ゆ製上て日孫
子の書ゆも敵の百方をもつて我百方とゆて
こまをもちゆる事を説ゆまバ容易ゆこのもの
刑戮をゆ〳〵ゆ〳〵ゆ〳〵ゆ〳〵ゆ〳〵ゆ〳〵ゆ〳〵ゆ〳〵

とて鎮臺の獄舍より召出だす

英夷上陸乱妨陳石和尚奮戦事

七月晦日和の刻ばかりのことなりき異人大船をもつて崇明縣の海岸をさること半里余のところより磯をわたり五艘より百八十人もこちのり長崎和蘭と云へる地方より上陸す直ち楊家楊廣なりといへる豪家より初めへくその戰家をとりまき婦女を淫し牛羊鶏犬ホの畜類をとりひ捕をとりひ獲す牛羊の異人ども多く有り翻譯をとりけ客員の奇怪なることいふんばかりなり婦女のともがらはいたくをとりて去りさらび他方より離散するもあり門戸をとざして陰をきしのびをり縣中の騒乱ひとしくなり陸石といへる和尚あり此ハ縣の書家なりしかれども年ハ老たれども武道をよくしかも性質流樣の豪人なり縣中の婦女老少異人の乱妨を避んとするものおわらんとすれバ陸石和尚ハ異人をよびまねをとるまねをしまのびをとて裝束衣服少々くくりあげつづくり陣樣よのわつくるをつきまるよ出人ハも

ちるここといふんばかりなり婦女のともがらいたくをとりて去りさらび他方より離散するもあり門戸をとざして陰をきしのびをり縣中の騒乱ひとしくなり陸石といへる和尚あり此ハ縣の書家なりしかれども年ハ老たれども武道をよくしかも性質流樣の豪人なり縣中の婦女老少異人の乱妨を避んとするものおわらんとすれバ陸石和尚ハ異人をよびまねをとるまねをしまのびをとて裝束衣服少々くくりあげつづくり陣樣よのわつくるをつきまるよ出人ハも

ちろん近村をかのものともあまたことやらんとち
の境めよりもあつまるこてよりあつまるこ陸石和高
詩ノよ唱〳〵言葉ハ近来英吉利西の夷人ども
中華よむろ〳〵軍船とき〳〵むかんとの風説もつ
ぶ〳〵ある物是ハ此の地よ上陸してゐる乱婦を
物るまひし土民を悩うくい銀令結髪ゆりの下ゐ
あくとも名々力をつく〳〵上陸の事へホとうちと
ちもて〳〵余海を探門りよあや麻衣ゆゆの
身なりとつくどもかく〳〵る時そらよのそんでいうでう
国要をとるべき我とところぎ〳〵をあ〳〵う

ちんそのハおろ〳〵そのあきとつげゐるよ夫人
ホそ〳〵憤激あ〳〵印刻和のまぐあよ立ち長
矩の場あ〳〵和の〳〵得逃呉ととつ〳〵ふ〳〵び
ちる門のまよおあつまる中なも平生今中の勇
夫とせうまる黄瑞方徐定鑿加和郎士良左助
ホの諸人ヨ毛おと〳〵〳〵と長橋をとつ〳〵ハセそ
ハるこのとき夷人ホハもの〳〵の武器よ乗ハて
そのうもとりしる所物を本船へそこぞんこち
百七八十人隊をあ〳〵て海辺よ引上りそんと
ホ陸石和高々勇よむろ〳〵その場夫ふべぐぶ

と夷人の引元要助よあつ〳〵十数人まぐるとま
つ〳〵決義せんとも夷人ホ佐兵ありとハ白刃く〳〵
らべまくまでとりうちもこるところの諸物をも
よ初つさぐるもあり背よあふもありふろこびいさ
んでさりぞ〳〵ところをいまこそ撫釜このと百金
人面もふ〳〵べ御てるる夷人ホふいのことるまじ
あくらんともせぬ初ホもこるところの諸物をな
げもてこおゐくのぐまさんとまるよ陳石和尚例の
大ある格をもつ〳〵夷人のあをとなきさおそる
つ〳〵夷人ホハとらへぐ〳〵て象格ぐあ〳〵のごと

ひゐ〳〵とうちふ〳〵おきへぐるところと鄭士良佐
助徐定のともぐ〳〵もこるさ〳〵と長槍をもつ〳〵ついで
まるるその余の夷人已ろうち出てこる。ところの果
張ホりよさ〳〵へらもおのづ〳〵おきこぐ〳〵てあるる
と々雲ホ刀槍をとつ〳〵なぐ〳〵つきあ和〳〵
警附の見よ英夷百二十余人どうちとうこえ来
夷人ホ艇引をもつ〳〵歩御を撃〳〵異よよつて
一さび地よ粉倒るるときいやいよおきあぐるを
あるいぐ〳〵つ〳〵陸ろ和尚格をもつ〳〵そのあ〳〵
をこうことあるよるぎさをせ〳〵ことハまらもこうく

捕獲者圖

てあり四五十人の事人ハこゝかしこにのがれちり
あるきバ行よつるぎ弓なる御舟をうばいとりその咽
喉を断てきりくるのちさぐりうつぐ〜とて今の勇
ホれともよ掠行よいうそのの御舟を破却ちんと
きるところと美人の本船より出でよ望をと陸
ともつ〜先刻のうの金銭をのぞき〜とこゝへいま
こそ時ありと船中のすり数挺の大砲をうちみし
まるの玉あまたぐ〜ぎいよあつ〜御舟を破
壊ちる今勇の防のうへすり逃留のうづくごとく
蕩きありいまきまぐべきやうあく恰むあ〜

陳石和尚薬師方郎士良とおもひとりてその余の
今勇おそれ〜砲火の義気とうけて海行の海上よ
うちふ〜ぬ〜てうちもらさまじくる事人ども追々
海打よ和あつまりあうバて破壊ちる御舟よのつ
うきいのちとさきりの和船へぞくりくるその大
船もまた今人の勇力抜群あるよ和そ者即彩
帆と揚げいづ〜とも有〜退船ちり即日署部堂
ようり右の姉事をもつ〜北亮へ注進よあ〜ぶる
よ陳石和尚よ黄張万安をよまりそのの余の今
勇〜も一〜丞業あつ〜あつ〜望蕃の社をお

こゝに広東総督吏
林則徐鄧廷楨罷廣東総督吏
去る八月中旬義律天津江より船を進入し
義律天津より寇を訴るの書を道光帝に奉呈し
一條抑々英吉利人の支那に対するの
その主意の言辞いつゝ兼明にしていさゝか傲慢
性質の意あり　さて廣東の定海の番地を攻陷
る所以のものハ林則徐鄧廷楨の二度く彩色ま
を廣東の政務をおこなひ英国あまたの商賈
殺戮せりとつゝ英国の人民その憤怒深きよつ
て一旦軍船をもつて直ちに將帥の命令

うけゝ半国の地疆よりるといへども妨りよ廣東
よりあつゝ英民を殺戮なるゝハまつゝ林則徐の
きよいで大皇帝至仁の宸襟よりいづるよあゝざ
ことゝ　さうきこべ去る二月来の旧好を備り
貿易の交易以ゝのごゝ許容なるまひ林則徐
都廷楨二人の友を奪ひしまふよあつゝハ半邦
へさ　むけゝところの軍船を即刻引退べ
とそのべよる中半国ハ天律よあつゝ此書を
一見して北京より上り皇帝のおよそのおもむきを
もつゝ一々奏進しぬ且上言なしなきバ今日よあ

つゝ林則徐郭廷拔おとゝ紹智の友を依無
任しゝをきゝまうゝいるを也しこの頃英夷の侵犯を
引起し中華の人民火砲の力命をわつがし
四海疲弊するゆゑんのものハともに林則徐の
よいでざるハ也し臣則徐の
家の大事を委任あるべきものゝあゝ
きび事を決するゝ果断勇決のこともつゝ
豆とあし絶て寛厚慈仁のこゝろあるゝ
ところの事寛極無用の道を得ぬとき英夷の激
怒を生じ義憤をあげ人民まゝをさゝるる

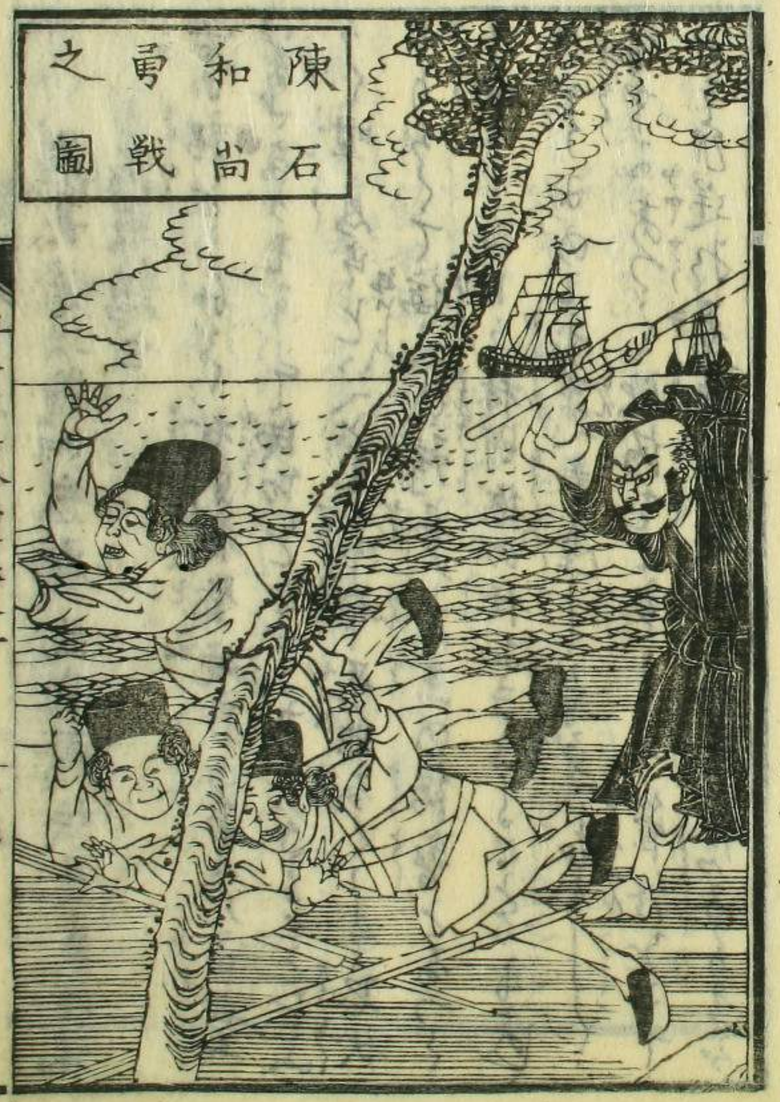
ことあるゝゆゑんなり其つゝ林則徐ハ帰ぬ
しゝあるをよろ思せんやもし則徐をして依無
職ハあゝしハ千戈ゆゑ
いるのときハあゝつゝ敵を換の大砲を陳造し
彩百万の兵を蓄ふ則徐一人廣東総督
の家ゝ城さゝしゝもるこをたゝるゝまゝ陛
下ゝ林則徐をもつゝ精忠西の長とるし
さまゝといへども業をの徐しきを拔ぎるゝ
ゝゝハ也をこれを忠長といるんやことゞを
ゝをしてのべるをバ皇帝まゝ時勢のいゝん

ともなべてうつしてうたうるをさつしてうたうるの儀あつて林則徐鄧廷楨等人綱督の責を罷べきの詔をくだしたまふその詔に曰

林則徐鄧廷楨在廣東査弁鴉片乃將逾両年不但未絶根株轉致英夷赴近畿呈訴冤抑成何事体已將英督示誤國病民弁理不善之處降旨宣示

再詔曰前因鴉片流毒海内特派林則徐馳往廣東海口會同鄧廷楨査弁原期肅清内地斷絶来源隨地隨時妥為弁理凡有

査弁以来内而奸民懲治不能尽絶外而典販来源並未斷絶至今英夷船隻沿海遊弋福建浙江々蘇山東直隸盛京紛々征調糜餉勞師此林則徐弁理不善所致林則徐鄧廷楨着交部分別嚴加議處林則徐即行来京聽候部議兩廣総督着琦善署理琦善未到任以前着怡良暫行護理此次英夷投遞稟帖所称吏抑朕洞悉各情斷不為重加痛剿惟詭督等以特派大員弁理終無實濟轉致別生支端誤國病民莫此



陳和尚石之
勇戰圖

為甚是以特加懲戒並非因挾夷稟訴遽
予厳議也
右の詔をうけく林別徐鄧廷枝の両人ハ
いまだあらをすして脱印をとゞるあゝハざることゝふ
く嘆息せといへども亭命を恐あくして石伏
せりく〳〵て傷人の持芋ハ虜寺の給番とあつく
下向せしが日々林別徐の仕おきくることゞもを
きゆくよのこゝ小立へ麦食し身分ハむかし〳〵
林中よりあつく脱印をとゞして官給をもて
あそび迂拙の業律と親ぬをむまひ法るうまぐ

のそむとゝろよりまうセ其の恐怖ハ
海防武備のあらいつくハ捨くるゞごく
一つひとり迂事の兵勢をせゞ陣下の誓盟をと
ゞるよいてるあげく〳〵嘆ぜべくんや
於餘姚縣擒英国第三女王子支
差殺正丘八去月嘗魚ものあゝく捕獲せる国者
の懐中ありさゞくいゞくるあし弱る所船
の四字および紅雑の羽毛をもつく船ごりあ
く携りよくもとゝけあき夷人おをこちびくべし
うまかゝ移りく約せることあるをび右のまゝと一度

して其墻より船をとゝのゝ必定なるべくく
兵庫の晴雲沙土より礙へらまゝその進退自由な
らぬゆゑ損傷せるところを一うちよりなるべし
まづこゝろよ浅瀬をえらびそのうつくしの
樹のこづえより右のあしの跡の四字を書
紙および紅雞の羽毛をとりくべしとて
さなかち先日とゝへうるゐちをしてと色を解
おせしめよりなごろ逆夷の大船一艘仲合より
あつゝ陸上のもゝをうゝけんさあるゐ跡を
目境をもつゝのぞきえるゐうゝ約せし

ごとく係挑船のうゝけつゝある一の海湾よりあつゝ
うのあしの跡の四字および紅雞の羽毛を
うけとめしめ一ゝ船中ゝ大
よ表収しとまゝ必定先つうけとゝのゐ
船つきよりうをえらびひうけとめとなる
ゐ一即刻船を進入せるとて九月二十日凡衡の
物あるゐ物なるよりまうせとぶうごとく毎二
無三よ表くこうるあよゝうんやその大船を歳
漕よのり河都沙土のさあよ礙へらまもよふをも
つゝ粘合せるごとくおせどもひけどもうこゝ

こそふつく夷人らハ大にいかり清兵にあだをなさんと
るゝことの口おしさよと忠慮をつひやしうらみ
さんとせしともその詮なし此ハ大砲をうち
たてそのいきほひによつて船を動揺しその
ところをたゝせさんとて艫のかたなる様君をおし
のかせて数挺の大砲をうちたてしかるにあま
り粮狭なしけるにや其のつらなるの葉船門を
激射し船ぞとまり沙泥に沈没し船中の
器具大に破損せり故におびたゞしく夷人ら端舟
をなげおろし一そうにうちのりて一まづ危難をの

がれ沖合にたゝせさり潮の来るをまちてふたゝび
大船をうかびいでさんとせしに右のていをとくと愈
志まりしりし正丘玉歩青桂林の諸人士卒
よけなしてその漁舟にうちのりて夷人のうきにこ
ぎよせまり鎮衛せしむ夷人らをのがさんと
ありしに勇八あとよりおいかけなかきさんにて
強弱をもつて夷人のりかけたる端舟の艫にうち
ちかけひきとぶも中に一女子あり年十七八なる
明眸にして脂膚にかく雪のごとく頭髪
漆のごとく黒くながくして肩にかけたる身の

紅色の衣服をつけ容貌の美艶なること清国婦女のあくまでおとろしきこの女勇猛人よりすぐれ黒白青人を指揮することなのごとくこづかい一ツの細付鉄砲をとり矛をもつて情兵のふりよりの義闘をすること恐鬼狀又のあきらかなるようにいと勇ましく中々うちとるべきやうあるまへなる敵をとて八角先の鞭をもつて御制〳〵くるくるる敵あるとき八角の毒尾をもつくるぐるるおそれて衆の弟妻万化性妙なることと春の蝴蝶花よりあらむも新のこの女見よ

初るぐるごとくあり。ついよ追きくる男ホ六七人をうちとろ〳〵とふの舶よ立あらまも追きくる敵あ〳〵ぐうちようちとんとぐひろへもるくくあ男ホそのいきろひよ辟易し其くこ鞭ろんともセぐ四方よさうとふのをとぎひきあきあきをそ〳〵いくるこのとき者人ども女わよ手を負セてハろのまぐと他の端舟まうアのセのぐきさんとしるを丘正ハ小舟よのつくとぶぐごくよるセきうう士卒よ下知して曰くきあ〳〵他ホ万アすの者地ろう来る婦女子のあよ

女將勇戰之圖

討まうさるゝ他日何の面目あつ〳〵人よりもてしと
今日べき即刻ゝ也とあるゝバ為男子こゝよ
気とゝろてあめ〳〵舟をのりづけうつてらるる
よの世おぼえびらるゝよまさるゝ三十余人の我とも必
しをきとゝろく御冥ふこの世おいてある天魔鬼神
ありとも争ゝもつ〳〵くろあつまき情兵四方ゝり
舟をもつ〳〵十重ゝ方ゝとゝろゝこゝゝゝびいるゝ八艘
中の者のごゝく逃るよおのゝ後よ情兵のゝ
よ擒獲せらる元来英雄三人の世公主あり茅八英
国今世の女帝第二位ゝ也ゝあつ〳〵踊るゝを擒佐

主茅三八即ち者よ素〳〵寵ゝとゝろの船
招ありとふゝて者人軍をきゝる世將を擒獲
せらるゝ舟ばあるひハ必死とあつ〳〵付死ととけ
まゝハゝ〳〵くして端舟よ乗ゝ〳〵のゝ者をゝ〳〵る
あゝよ者人ゝ実体ハ右義のゝろ体きものゝ中
こゝゝ〳〵やゝとあるゝ擒ゝつき姫絶難苦よゝ
んとゝを信のゝ〳〵ゝ右者人を除姫の舟
陣よ義重厳重ゝ者人をゝ貸らるる

海外新語拾遺卷之終

早稲田大学図書館
011488465890